

# 年 頭 所 感

農薬工業会会長 吉 田 豊

あけましておめでとうございます。

昨冬は除草剤試験研究25周年、(財)日本植物調節剤研究協会設立10周年、研究所竣工の記念行事がとり行なわれましたことを重ねてお慶び申し上げます。

振りかえってみますと、昨年は大変な年でありました。一昨年の石油危機をうけて、石油緊急対策として電気使用制限令、石油需給適正化法の発動、3月には国民生活安定緊急対策の一環として基礎物資、生活関連物資などの価格抑制策が実施され、農薬は登録件数13,000を超える各種の薬剤が一本化されて基礎物資53品目の中の一つとして価格が凍結されました。

こうした激動の中で、農薬製造業に対しては電力も優先措置が講ぜられたのでありますが、農薬生産に不可欠な関連資材物資に対しては、必要措置がとられなかったので、関係官庁に月々の所要電力量の増配を陳情しました。幸い一昨年度と同量位は供給可能の見通しがつきました頃、いもち病多発に対応するための薬剤確保の追い討ちがかかり、業界必死の努力で、地域によっては若干の喰い違いもありましたが、ほぼ防除の目的が達せられましたことはご同慶に

たえません。この結果は一昨年の供給数量58万トンに対し昨年は約70万トンになりました。

しかし、新しい年を迎えることになって、昨年安定供給の責を果し得た安緒の気持ちの中で、農家で実際に使用された量はどの位だったか？統計数字がわからないまま大きな問題を抱えております。

この数年来、私どもは農薬の安全性の問題で苛酷なまでに社会的批判と要請をうけたものでありますが、業界あげて懸命な研究努力によって、これらに対応できる体制確立に専心しております。しかし、今年度当面する問題としては、上記した物量対策の他に、予想される公共料金始め諸物価の高騰、5月から実施される資本の100%自由化、本年国会で審議される物質特許制度への移行等、企業体質の根本的改善を迫られております。

一方食糧問題が地球上の緊急課題としてとりあげられておりますとき、私どもは植物保護として農薬に課せられた使命を改めて認識し、研鑽を重ねたい所存でありますので、各位の変らぬご指導ご協力をお願いして新年のご挨拶いたします。

Weed List in Asian-Pacific Area 実費頒布(900)

お申し込みは 植調編集印刷事務所へ  
(東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内)